

Ⅲ. 2016年度入試問題の説明

【国 語】

〈問題構成〉

2016年度は、第1回が㊦小説『路傍の石』（山本有三）と㊧論説文『布のちから』（田中優子）でした。第2回が㊦論説文『言葉について』（古井由吉）と㊧小説『あと少し、もう少し』（瀬尾まいこ）、第3回が㊦論説文『塩の文明誌』（佐藤洋一郎・渡邊紹裕）と㊧小説『拝啓 彼方からあなたへ』（谷瑞恵）でした。文学的な文章と説明的な文章を取り合わせた出題形式が定着しています。

問題数は、第1回が㊦の問いは14問、㊧の問いは13問、合わせて27問で、第2回は24問、第3回は25問でした。内容理解に関しては、選択問題と記述問題をおりまぜて出題しています。記述問題は、3回を通して80字以上100字以内のものを1問出題しました。第1回では、本文の中心となる題材についての人々のとらえ方の移り変わりを、その理由とともに80字以上90字以内で説明する問いを出題しました。第2回では、経験や想像から本文の内容にあてはまる具体例をあげて80字以上90字以内で説明する問い、第3回は、本文の内容と筆者の考えを90字以上100字以内で説明する問いでした。他に、内容理解を確認する記述を数問出題しました。

漢字の読み書き、言葉・表現の意味などについては、毎年出題しています。漢字の出題形態は独立問題とすることも、本文中から出題する場合があります。問題数は6問前後で、読みと書き取りの数の内訳に決まりはありません。漢字は、小学校6年生までの教科書の範囲内です。

〈問題傾向〉第1回

小説『路傍の石』には、学校の始業に遅刻してはいけないと焦っていた主人公吾一的心情が、京造をはじめとする仲間の少年たちや、先生とのやりとりを軸に描かれています。吾一的心情を読み取る設問（問三、問四、問五、問七、問八、問十一、問十三）が中心ですが、京造（問六、問十）に関する設問も出題しました。特に京造は、主人公の生き方に対する考え方に大きな影響をもたらします。京造のどのような部分にどう影響を受けたか、丁寧に追っていくことが重要です（問九）。また、たとえが多い文章ですが、何をどのようにたどっているのか正確に読み取る点にも注意したいところです（問二、問十二）。

説明文『布の力』は、自然と人間が深く関わりながら成り立っていた手仕事のものに対する見方が、工業製品のあふれる時代になって変化したことを説明するものです。筆者が出会った紙漉き職人の手仕事に対する見方（問二、問四、問八）、手仕事のもの作りの特徴（問三、問五、問六、問七、問九）、実用品について（問十、問十一）など、丹念に本文を読み進め、手仕事のものを作り出す人間にとって近代の生活様式や仕事がどのようなものであるのか（問十二）を踏まえた上で、筆者の手仕事のものに対する見方を80字以上90字以内の記述で説明します（問十三）。

一 問二

線①「ソロバンの玉はおどるのをやめなかった」とはどのようなことを表していますか。もっとも適当なものを次の1～4から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 カバンの中のソロバンが音を立ててやまないように、吾一の頭の中で学校におくれているって立たされる場面などが次々と浮かんでくる様子も表している。
- 2 動き続けるソロバンの玉は日常のさまざまなことに敏感に反応する吾一の姿につながり、おさえようとしてもおさえられない少年の不安定な心の状態も表している。
- 3 吾一が学校におくれないように走っているためにカバンの中のソロバンが音を立てているのだが、早く学校に到着しなければならないと焦っている吾一の気持ちも表している。
- 4 ソロバンの玉を人の動きになぞらえて表現することで吾一の置かれている状況を暗示し、動き続ける玉はこの後吾一の運命が波乱に満ちたものになることも表している。

〔解答 3〕

問九

線⑧「吾一はなんだかげんこつでむなもとを、ドカンとやられたような気がした」とありますが、吾一にこのように思わせたのは京造のどのような行動ですか。三十字以上四十字以内で具体的に書きなさい。

〔解答例 省略〕

問十三

線⑫「光が吾一の目にささった。彼はある痛みを感じた」とありますが、このときの吾一の気持ちはどのようなものですか。その説明としてもっとも適当なものを次の1～4から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 友達なら今のように要領よく、自分がおくれた本当の理由を先生に代弁してくれないかと催促するような京造の視線を感じ、それを言う二人を真っ先に置いてきた自分の薄情さを話すことになるのではないかと尻込みしている。
- 2 授業中いきなり質問されても要領よく行動できることへの嫉妬の視線を受け、京造は優等生の自分のことをねたんでいたの先ほども一人で学校に向かったのを引き止めなかったのだと気づき、がく然とした気持ちになっている。

二

問四

- 3 今朝の自分勝手な行動がなかったかのように平然と授業を受け、先生の期待通りにふるまっていることに対して、京造の視線が本当にそれでいいのかと問いかけているように感じ、自分自身でも後ろめたさを打ち消せずにいる。
- 4 仲間うちのリーダーである自分が指示を出す前になぜ勝手な行動を取ったのだという京造の鋭い視線を受け、もう少し待てばみんなは先に行けと言ってくれたのに今日はどうして待てなかったのかと後悔の念にかられている。

〔解答 3〕

線③「結局機械ではできないからね」とありますが、何ができないのですか。「…こと。」に続くように文中から三十一字でぬき出し、初めと終わりの四字を書きなさい。

〔解答 あらゆるくて避ける(こと)。()〕

問七

線⑥「すべて、ものごとが「自然」の側にゆだねられている」とはどういうことですか。もっとも適当なものを次の1～4から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 一律に同じ仕上りの布を生み出せる機械と違って、人の手で布を作るときには職人や自然条件によって出来不出来があるのは避けられないということ。
- 2 機械で作る布は職人の調整次第で色合いや感触を変えられるが、人の手で布を作るときには材料の生産地や織る季節、時間の違いによる個性しか出せないということ。
- 3 布の質を保ちながら、個性を何度でも再現できる機械と違って、人の手で布を作るときには織る人や手に入る材料によって異なる個性が表れてしまうということ。
- 4 機械で作る布は糸が等間隔で仕上がりが一定であるが、人の手で布を作るときには自然の状態という管理できないものによる出来上りが全面的に影響されるということ。

〔解答 4〕

問十三

線⑪「欧米と日本がたどったこの道」とありますが、手仕事のものに対するとらえ方はどのように変わりましたか。変化の理由もふくめて八十文字以上九十文字以内で具体的に説明しなさい。

〔解答例 省略〕

〈問題傾向〉第2回

随筆（講演録）『言葉について』は、言葉を自分のものにする、言葉を理解すること・使うことといった普遍的な問題を論じた文章です。話す言葉が切れ切れになっている現状に問題を感じていること（問一～五）、文字をただ目で追うのみならず、相手の感情など対象の本質にかかわることを含めて言葉の意味をつかむことで深く理解できるようになること（問七・八・十四）、言葉をどう使うか、話しかた・言葉・言葉づかい・言語感覚など言葉についての多岐にわたる問題についての筆者の考え（問九～十三）も出題しました。80字～90字の長い記述は、ある問題についての一般的な理解にとどまらず、さらに深く知った結果、どのようなことが「わかった」のかを具体化する問題でした。

小説『あと少し、もう少し』の主人公「榊井」は陸上競技に対する意識が高く、仲間のことをよくわかっていて、実力も十分ありますが、決して単純な好人物ではありません。意識が高いがゆえに自分の感情の全てをさらけ出すことができず（問八）、チームのみんなから「一目置かれちゃってる」孤高の人物でもあります。本調子ではなく、貧血に苦しみながら走ってもあります。かつて自分が教え導き、今では自分の記録を超えた後輩とのやり取り（問二・三）、顧問の上原先生とのやり取り（問七～九）を思い出し、身体を前へと必死に進ませています。文章全体の表現・内容を問う問題も出題しました（問十）。

一

問七

線⑤「耳が悪くなってきた」とはどういうことですか。「……ということ。」に続くように、線⑤より後の文中から二十字以上二十五字以内でぬき出し、初めと終わりの五字を書きなさい。

〔解答〕 他人の言葉よなっている

問十二 線⑩「彼らに比べると、大学にいる人間ってのはいつまでもずいぶん子どもっぽい話し方をしてるな」とありますが、それはなぜですか。その説明としてもっとも適当なものを次の1～4から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 大学に行かずに働きた人間は、小さいころから社会で通用するような大人っぽい言葉づかいを家庭でしっかり教育されていたが、大学にいる人間は、学問の言葉しか勉強してこなかったから。
- 2 大学に行かずに働きた人間は、まわりが大人ばかりだから無理をしても大人っぽい言葉を話さなければならなかったが、大学にいる人間は、同じ年ごろの仲間としか話す機会が持てないから。
- 3 大学に行かずに働きた人間は、仲間うちと商売の相手との話し方の区別を自然と身につけるが、大学にいる人間は、仲間うちの人間とばかり接しているので、しっかり話さなくても考えが伝わると思っているから。
- 4 大学に行かずに働きた人間は、商売用の話し方をして大人っぽくふるまいたいものだが、大学にいる人間は、社会に出て働くよりも、いつまでも大学生という立場にたつて楽をしたいと思っているから。

〔解答〕 3

二

問八

線⑦「自分の深さ三センチのところまで勝負してる」とはどういうことですか。もっとも適当なものを次の1～4から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 自分の考えが深くなるとわからなくなってしまうので、思いついたことをすぐに行動に移していること。
- 2 自分の本心をむき出しにすることなく、自分がどのようにあるべきかを気にして行動していること。
- 3 自分で考えた結論が正しいかどうか自信が持てず、少し手直ししてから行動に移していること。
- 4 自分の正直な気持ちを顧みる（かま）ことなく、他人の気持ちばかりを思いやって行動していること。

〔解答〕 2

問九

線⑧「走れなくてもいい。私が、ううん、私たちが望んでいるのはそんなことじゃないから。でも、6区を走るのには榊井君だよ」とありますが、この言葉で上原先生は榊井にどういうことを伝えたかったのですか。もっとも適当なものを次の1～4から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 言いたくはなかったであろう貧血という体調不良の理由を口にしたつらさが伝わってきたので、勝負には負けてしまってもかまわないが、それを負担に思わないで済むように「走れなくてもいい」と念を押したということ。
- 2 最後までかっこいい走者、先輩でいようとして、周囲はもちろんのこと自分自身も見失いつつあるのでも、6区を走らせて走者としての実力がどれほどのものであったかを本人に思い知らせようということ。
- 3 理想の先輩であるうとする意気込みが強すぎて、時に他のメンバーから距離を置かれるようになっていたが、たとえ負けてみじめな姿を見せることになっても6区でベストを尽くして走るべきだということ。
- 4 自分の走りや勝負にこだわりすぎる榊井と他のメンバーの間には明らかに熱意の差があり、もう少し先輩として榊井が歩み寄らないと、勝てないだけでなく仲間も失いかねないと注意をうながそうということ。

〔解答〕 3

〈問題傾向〉第3回

論説文『塩の文明誌』は、塩害に対するタイの農民の対応について紹介しながら、災害にはプラスの面とマイナスの面とがあり、受け取り方によって変わってくるということを説明しています。タイ東北部における塩害の様子とそれに対するタイの人々の対応の仕方について確認し（問三、問五、問九）、災害にはプラスの面とマイナスの面とがあること（問十、問十一）を押さえ、これからの人間社会は自然とどのように関わっていくべきなのか（問十二、問十三）について問いました。特に「治水」と「利水」という二つの言葉の意味を押さえて筆者の考えをまとめるという最後の問いは、全体の主題に関わる記述問題として出題しています（問十三）。

小説『拝啓 彼方からあなたへ』では、今は離れて暮らしている父と息子ショウが、手紙を通じて心を通わせていく様子が描かれています。一人ではなかなか父に会いに行けないショウのためらう気持ち（問二）や、勇気を出して父の書道展を訪れた際の気持ち（問四）、文字からうかがえる父の人物（問七）、自分の名前にこめられた父の思いをショウが確かに受け取ったこと（問六）など、登場人物の心情を読み取る問題をはじめ、名前は親から子への最初のメッセージであることに関する記述問題（問十一）や手紙の持つ力（問十二）などを問うています。

一

問九 ——— 線⑦「無知からくるあきらめというよりは、自然を理解しているがゆえのあきらめに近い」とはどういうことですか。もつとも適当なものを次の1〜4から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 補償を求めたり原因を究明したりする知恵がないというよりは、自然や社会に対して人間は無力だと逆らわないでいるということ。
- 2 人間の力では自然にかなわないことを知っているというよりは、運を天に任せることで幸運がもたらされると考えているということ。
- 3 科学的な知識にとほしいから行動できないわけではなく、自然に沿った考え方で自分たちの経験から判断し行動しているということ。
- 4 自然を理解できないから抵抗しないわけではなく、自然の怖さをよく知っているからこそあえて何もせず放置しているということ。

〔解答 3〕

問十一 ——— 線⑨「前者」と——— 線⑩「後者」とありますが、「前者」「後者」にあてはまる具体例としてもつとも適当なものを次の1〜6からそれぞれ一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 火山の多い日本では今年も桜島や箱根などの噴火が心配されたが、箱根町ではようやく噴火警戒レベルも下がり、観光客の増加が期待されている。
- 2 明日は県のスポーツ振興計画の中心となる大事な野球の試合だが、雨が降るとグラウンドが使えないため、てるてる坊主を何個も作り軒下につるしている。
- 3 今年は暖冬のため、大根や白菜などの冬野菜がとれ過ぎてどんなに出荷調整をしても追いつかず、価格が暴落して野菜農家は大きな被害を受けた。
- 4 山の多い日本では大雨による土砂災害に備えて川の上流に砂防ダムを造ったり、山の斜面の下に防護壁を造ったりして、安全対策に取り組んでいる。
- 5 中国のGDPはここ数年飛躍的に伸びており、人々の生活は豊かになったが、深刻な大気汚染など公害という新たな課題が浮上してきている。
- 6 小千谷地方は日本有数の豪雪地帯であるが、汗に汚れた着物を、薬品を使わずに雪で漂白するという「雪さらし」が伝統的に行われている。

〔解答 前者4 後者6〕

二

問十一 ——— 線⑩「失いかけていたそれを、将くんは取り戻せた」とはどういうことですか。四十字以上五十字以内で説明しなさい。

〔解答例 省略〕